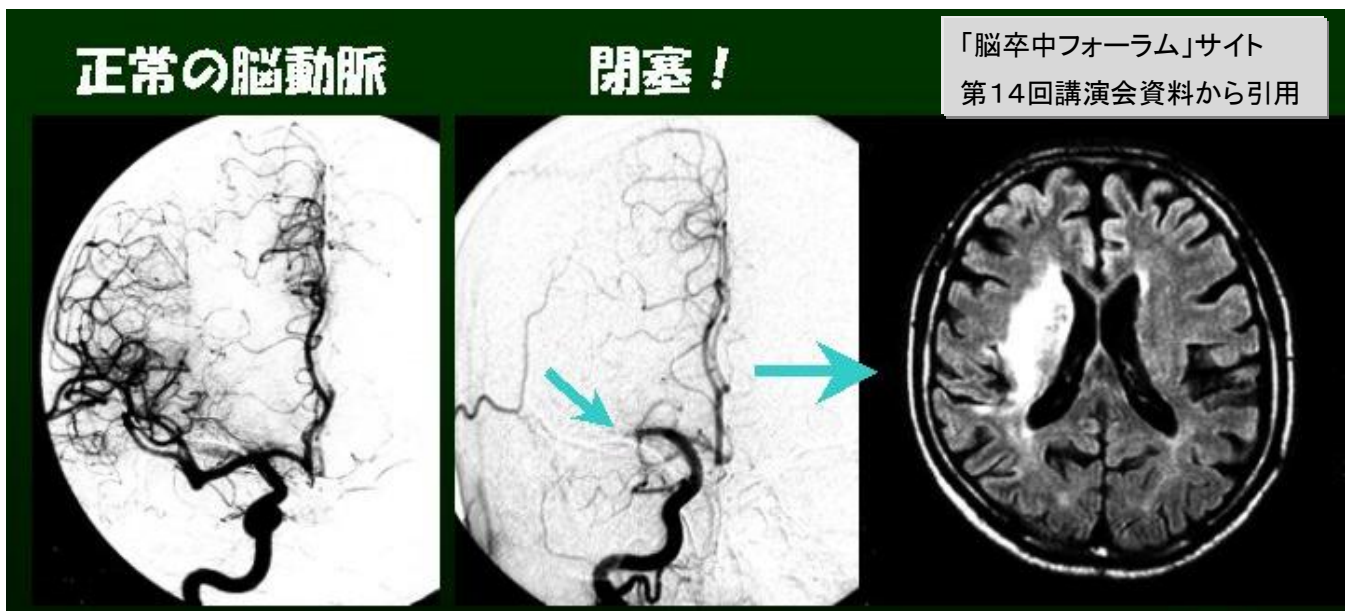


週刊 タバコの正体

タバコを吸うと血管を痛め、その結果“動脈硬化”や“心筋梗塞”の原因となる事を知ってもらいましたね。血管は身体じゅうに張りめぐらされているので、タバコを吸い続けると、体内のどこでも血管異常が起きる可能性があります。心臓の血管が詰まると“心筋梗塞”になるように、ほかの臓器の血管が詰まることだってあるわけです。

そうです。脳の血管が詰まると、下図のような状態になります。これが“脳梗塞”という病気です。正常な場合は、左の写真のように全体に血液が流れていますが、血管が詰まると真ん中の写真(矢印の先)のように血液の流れがなくなります。このような脳の断面図(右の写真)をみると、血液が流れていない所が白っぽく見えます。



血液が流れなくなると脳の細胞は、酸素や栄養が不足して正常な活動ができなくなります。すると、突然倒れたり、ろれつが回らなくなったり、口が閉じられなくなったり、手足の感覚がなくなったり・・・という症状が現れます。これは、脳のどの部分で血管が詰まったかによるのです。

そして、何の前ぶれもなく突然起きる事が多く、その処置が遅れると命を落とす場合もあるそうです。怖いですね。さらに、血液が流れなくなって死んでしまった脳細胞はもとに戻らないので、その脳が担当していた身体機能に影響がでます。つまり、片側の手足がマヒしてしまったり、言語障害が現れたりという後遺症が残ることが多いのです。

こんな病気になる確率が高くなるのを知って、タバコに手を出す事はしないですね。